

## 1 学校教育目標

人間としての尊厳を確立し、世界にはばたく人となる国民の育成を目指し、生徒や地域の実態を踏まえ、次のように本校の教育目標を定める。

- 1 健康（体）      2 明るく楽しく（徳）      3 少しずつ賢くなる（知）

## 2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○人権教育を中心に知・徳・体バランスよく教育し、生徒の自立を目指す学校</li> <li>○生徒・保護者・地域の信頼のもと、厳しく、温かく育む学校</li> <li>○教員が連携し、組織的に生徒一人一人の課題に取り組む学校</li> </ul>
○児童・生徒像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○向上心を持ち、互いに切磋琢磨しながら、自ら学習に取り組む生徒</li> <li>○自他の生命や人権を尊重する心や規範意識を持ち、礼儀正しく品位のある生徒</li> <li>○健康に留意し、自らの体力向上を目指し、鍛える生徒</li> </ul>
○教師像	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育者としての使命感を持ち、わかる授業を実践できる教師</li> <li>○生徒一人一人の気持ちに寄り添い「厳しく・温かく・わかる言葉」で指導できる教師</li> <li>○主体的かつ適切な判断のもと、組織的に生徒の知・徳・体を鍛えることができる教師</li> </ul>

## 3 学校の現状及び前年度の成果と課題

<学校の現状及び成果と課題>

－学校について－

〔成果〕

- 学校生活は授業を大切にすることを基本とし、落ち着いた、真面目な雰囲気の中で教育活動が行われている。特に授業規律の徹底が図られている。
- 地域は協力的で、地域の学校として大切にされ、コロナ禍でも円滑に学校運営が進められている。

〔課題〕

- 真面目な雰囲気が常に保たれる反面、不登校の生徒が多い。

－生徒について－

〔成果〕

- 明るく、さわやかで、気持ちの良い挨拶ができる。
- 集団での生活の仕方、マナーなどを理解し、他者への思いやりの心をもった生徒が多い。
- 学校行事に真剣に取り組むことができる生徒が多い。
- 部活動に熱心に参加する生徒が多い。

〔課題〕

- 主体的にチャレンジし成果を上げる姿勢がやや弱い。

－教職員について－

〔成果〕

- 生徒の個々の課題について熱心に取り組む教員が多い。
- 自己の校務について責任感を強くもって遂行できる。

〔課題〕

○経験の浅い教員が多く授業改善をはじめ OJT を更に進める必要がある。

○課題に気付く力を身につける必要がある。

－保護者・地域について－

〔成果〕

○PTA、開かれた学校作り協議会、おやじの会、おやじの会 OB、近隣9自治会など地域や保護者が協力的で、広い心で本校の学校教育に理解を示してくださり、学校運営を円滑に進めることができる。

〔課題〕

○ごく一部ではあるが、学校の指導に理解いただくのに時間がかかる家庭があるが、協力して子どもを育てる姿勢を貫き、ご理解いただく。

## 4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン	○	○	○	○	○
2	人権教育の推進	○	○	○	○	○
3	保護者・地域と連携した教育の推進	○	○	○	○	○
4						

## 5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン			
A 今年度の成果目標	達成基準 (目標通過率)	実施結果 (通過率結果)	コメント・課題	達成度 ◎○△●	
学力向上 ・生徒の学習意欲を喚起し、主体的に学び、思考力・判断力・表現力を身に付ける指導をする。 ・基礎的・基本的な学力を充実させるための指導の工夫を行う。	・令和5年度区調査通過率全学年全教科65% ・年度末到達度確認テスト正答率が目標値を超える	・令和5年度区調査通過率 1年国語72.0%数学76.2% 英語77.4% 2年国語74.2%数学74.2% 英語59.9% 3年国語76.9%数学74.9% 英語70.5%	全学年、全教科で通過率65%を目標としたが、2年英語で65%を超えることができなかった。	◎	

B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続・ 改善	区学力調 到達度確 認テスト を活用し た到達度 調査の実 施	1・2年生 全生徒 国語 数学 英語	2月 3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1・2学年生徒を対象に、国語科・数学科・英語科の授業時間及び学びタイムに到達度確認テストを実施し、生徒の自己採点と教員による解説の時間をとる。</li> <li>・結果を分析し、補充授業を行う。</li> </ul>	結果の分析 定着度の低い 問題の再確認	平均正答率が 目標値を超え る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平均正答率</li> <li>1年国語 79.8%</li> <li>数学 56.4%</li> <li>英語 70.5%</li> <li>2年国語 72.6%</li> <li>数学 59.8%</li> <li>英語 63.8%</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべての教科で、目標値を上回った。</li> <li>・到達度の低い問題については、学びタイムで、Qubena 等を活用して類似問題を復習させる。</li> </ul>	◎
2 継続・ 改善	朝の「学び タイム」 (必要に 応じて個 別取出指 導)等補充 指導	全生徒 国語 数学 英語 社会 理科 ※取り出 し教室 は、 単元テスト で学力 定着の悪い 生徒の 生徒	定期考 査前の 放課後  毎朝始 業前 25分 (教科 は学年 で決め る)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝の「学びタイム」</li> <li>[指導体制]各学級担任と学年副担任(全学年教員)</li> <li>[取組内容]</li> <li>毎朝、学習内容の復習・確認を行う。漢字の読み、書き・計算・英単語を中心</li> <li>基礎学力の定着</li> <li>自学自習の力の養成</li> <li>[使用教材]Qubena</li> <li>漢字・計算・英単語のプリント</li> <li>・補充教室</li> <li>[取組内容]</li> <li>単元テスト等で基礎の定着が悪い生徒を取り出して授業を実施</li> </ul>	学習コンテス ト(漢字・計 算・英単語) の実施	学習コンテス トの正解率9 0%以上の生 徒が全校生徒 の70%を超 える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>1年70%</li> <li>2年76%</li> <li>3年88%</li> <li>すべての学年で 70%を超えた</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学年が上がるごとに、満点を取る生徒も増えている。</li> <li>定期考査前の学習教室に参加した生徒は意欲的に学習に取り組み成果を上げている。</li> <li>朝の「学びタイム」を25分間勉強できるように確保する。</li> </ul>	○

3 新規・継続	授業改善 I C T 機 器の活用 を進める。	全教員 全生徒 全教科	毎時間 年2回	<p>[毎時間]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業規律の確立の徹底</li> <li>・切磋琢磨し高め合う集団作り指導</li> </ul> <p>[年2回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管理職による授業参観と指導</li> <li>・教師相互による授業参観月間</li> <li>・生徒による授業評価</li> <li>・研究授業の実施</li> </ul> <p>[その他]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研究授業の実施</li> <li>・小中連携研修による</li> <li>・学力調査の分析</li> <li>・肯定的な声かけの研究</li> </ul>	区学力調査 通過率 学校生活アンケート	通過率前年比 UP 「授業はわかりやすい。」の肯定的回答率80%以上	1年94% 2年92% 3年96% すべての学年で80%を超えた	小中連携研修会の研究授業や、年次研修の研究授業を行い、教員相互の授業観察を行った。	△
4 継続・改善	家庭での学習習慣の確立を図る。	全生徒 全教員 全教科	全授業 学活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・AIドリルを朝の学びの時間、家庭で活用する。</li> <li>・家庭での活用、休校時の活用を工夫する。</li> <li>・「家庭学習ノート」「生活の記録」を配付し、記入させ毎日回収し、家庭学習の意欲を高める指導を継続する。</li> <li>・Qubenaシートを活用した補習を実施する。</li> </ul>	学校生活アンケート	「家庭学習はしっかりしている。」の肯定的回答率80%以上	1年81% 2年83% 3年86% すべての学年で80%を超えた	「家庭学習ノート」の活用を引き続き行い、習慣づいている生徒には、学習効果を高める指導を徹底していく。習慣づいていない生徒には、家庭と連携して意欲を高める指導を継続する。	○

重点的な取組事項－2		人権教育の推進			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
人権意識の向上(いじめ防止を最重要課題とする) 思いやりの心を育てる 特別支援教育の視点に立った個別支援教育の推進		<ul style="list-style-type: none"> <li>人権学習週間年3回実施(講話、学級指導、全体で学ぶ時間などを取り入れ、多面的に実施する)</li> <li>いじめ0、体罰0の達成</li> <li>道徳地区公開講座などで意識を寛容させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権学習週間は年3回実施した。学年ごとに発達段階に応じた人権問題について考え、思いやりの心が育ち、優しい言葉かけができる生徒が増えている。</li> <li>ハートワーク(生徒が先生を選ぶ面接)を実施し、先生を信頼して相談できる関係を構築し、より深く生徒を理解することができた</li> <li>道徳授業は完全実施した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ問題、生徒の人権にかかわることについては迅速に対応できた。</li> <li>いじめの件数も少なく、迅速に対応できた。</li> <li>人権教育を丁寧に行い人権について真剣に考えることができる生徒が大部分である。</li> </ul>	◎
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
人権意識の向上(いじめ防止)	人権学習週間で、生徒が人権についてよく考えていることがアンケートや感想文から読み取れる。(90%以上)	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒のきまりを守り、規律ある生活をさせることでいじめの芽を摘む。</li> <li>人権学習週間の年3回実施—校長講話、学級指導、全校で学ぶ時間などを取り入れた多面的な学習</li> <li>生徒自らが、いじめをはじめとする人権課題について考える取組の実施(いじめをテーマにした生徒会のパネルディスカッションなど)</li> <li>いじめ防止を含めた学校生活に関するアンケート実施</li> <li>いじめ防止対策委員会を企画会の中に設置し週1回確実に機能させる。</li> <li>特別支援教育推進委員会で不登校等で心の問題を抱える生徒の問題解決に当たる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>人権について考える機会が増え、思いやりをもって人と接することができる生徒が多く、正しいことがとおる学校になっている。</li> <li>人権学習週間は年間3週間にわたり実施されるが、教員も生徒も楽しみにしている。</li> <li>生徒アンケートによると「人権の学習によく取り組んでいる」と答えた生徒が91%であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>本校の教員は生徒の個々の課題を発見した際に熱心に生徒とかわり、解決するまで対応することを心がけている。</li> <li>生徒に規範意識が育っていて、校則を守ることによって学校生活が穏やかに送ることができている。</li> <li>保護者と連携して子どもの精神的発達を促したい。</li> <li>教員の人権意識についても今一度確認し、高めていきたい。</li> </ul>	◎

<p>思いやりの心を育てる (自尊感情とともに自己肯定感を高める)</p>	<p>学校・学年行事、道徳授業、地域行事の後の感想文を読み取り、思いやりの心や自尊感情、自己肯定感が高まったことを確認する。 (80%以上)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 集団生活の仕方の指導を学校生活全般で行い、集団が気持ちよく生活できるようにする。</li> <li>・ 道徳教育推進教師を中心として効果的な道徳授業を進めるとともに、道徳授業地区公開講座年2回実施する。</li> <li>・ 生徒の委員会活動とおして自尊感情、自己肯定感を高める。 (学校・学年行事での係活動、挨拶運動、環境整備活動など)</li> <li>・ 地域清掃等校内ペンキ塗りなどのボランティア活動や職場体験、地域行事などを通して自己肯定感を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中学校は集団での生活の仕方を学ぶ場所であることを、職員会・朝打合せ・生活指導部会等様々な場面で確認し、教員全体が切磋琢磨し、正しく伸びる生徒集団をつくるべく努力している。</li> <li>・ 道徳教育推進教師を中心に、各学年の道徳担当が、道徳授業を計画的、効果的に配置し授業を行い結果として、生徒の人権意識、自尊感情、自己肯定感は高まっている。</li> <li>・ ハートフルウイークでは自分が選んだ先生と様々な話題で会話することができ、生徒の自己肯定感につながった。</li> <li>・ ボランティア活動に多くの成果がかかわり、自己肯定感を高めた。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者や地域の理解のもと、コロナ前とのように行事を全て実施することができた。たくさんの方に見守られ、生徒の成長は著しいものがあった。</li> <li>・ 生徒の自己肯定感や自尊意識は年々高まっていることを感じるが、「自分には良いところがある」との生徒アンケートでは81%が肯定的な回答をしている。</li> </ul>	<p>◎</p>
---	--	--	--	---	----------

<p><b>重点的な取組事項－3</b> 保護者・地域と連携した教育の推進</p>					
<p><b>A 今年度の成果目標</b></p> <p>地域の大人全体で地域で生活している生徒を育てるという意識を高め、生徒の社会性を育成する。</p>	<p><b>達成基準</b></p> <p>保護者・地域と連携した行事や教育活動のさらなる充実</p>	<p><b>実施結果</b></p> <p>職場体験、開かれた学校づくり協議会と関わる地域清掃等ができた。</p>	<p><b>コメント・課題</b></p> <p>地域と学校そして保護者が手を取り合って、地域の子どもを育てる風土を醸成したい</p>	<p>達成度</p> <p>○</p>	
<p><b>B 目標実現に向けた取組み</b></p>					
<p><b>項目</b></p> <p>地域の教育力の活用 (学校から地域へ)</p>	<p><b>達成基準</b></p> <p>地域行事に参加する生徒が感想等で自信や満足感を感じ自分の住んでいる地域に愛着を感じている割合が参加者の90%以上</p>	<p><b>具体的な方策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域の歴史・文化・伝統の学習</li> <li>・ 生徒の地域行事への参加、発表</li> <li>・ 地域掲示板や学校だより、ホームページによる教育活動の周知</li> </ul>	<p><b>実施結果</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 地域行事は一部開催されたものがあつた。</li> <li>・ 2年生で職場体験を行ったが地域の方々から厚遇を受け、生徒は有意義な体験をした。</li> </ul>	<p><b>コメント・課題</b></p> <p>・ 生徒アンケートでは「地域に愛着を感じている」生徒が66%おり、この意識を更に発展させる。</p>	<p>達成度</p> <p>○</p>

地域の教育力の活用 (保護者、地域から学校へ)	生徒の感想文などにより、保護者や地域の方との共同について感謝の気持ちが表れ、意欲の向上が見られる割合が参加者の90%以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の奉仕活動など(毎日の「朝の挨拶運動」の実施)</li> <li>進路指導における3年生全員面接の指導協力</li> </ul>	朝の挨拶運動は実施できた。	朝の挨拶運動は再開した。積極的にアナウンスして参加者を増やしたい。	△
----------------------------	--	---	---------------	-----------------------------------	---

## 6 まとめ

### (1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

#### 学力向上アクションプランについて

##### 【課題】

区学力調査テストの結果は正答率が1年 国語 75.3% 数学 71.2% 英語 74.7% 2年 国語 73.4% 数学 53.4% 英語 61.4%  
3年 国語 80.3% 数学 54.4% 英語 66.0%

正答率で、2年の国語が全国平均値未満であった。

2年生の国語で言葉・言語・情報文化の領域に課題が見られた。

##### 【対策】

昨年度、今年度と英語科では話すことを中心に研究を進め、授業を行ったため改善された。

すべての領域で全国平均を上回っているが、各学年、各教科で結果を分析、把握する。

定着していない生徒に対して、3月の授業及び新年度の授業で補充学習を行う。

生徒個人が到達度確認テストでの不正解から自己の課題を把握し、Qubenaシートを活用し補充学習を行う。

また、朝の学びタイムを活用し、未定着である生徒を選出し、取り出し特別授業を行う。放課後の補習授業を行う。

##### <成果>

- 学校生活全ての場面で、集団生活力向上の指導（良好な生活習慣の確立・学校生活きまり遵守・授業規律遵守の徹底・集団の中での思いやりの大切さ）等を指導し、集団生活力を高め、全ての生徒が学校生活において真面目にかつ、思いやりの心を持ち、互いに学び合い、高め合うべく活動している。

結果として生徒が気持ちよく穏やかに学校生活を送り、授業規律を守り積極的に授業に参加し学力向上を図ることができている。

- 集団生活力向上とともに、年間3回の人権学習週間を中心に学習を進めた。特に第2回人権学習習慣においては、生徒がパネルディスカッションを行い、生徒が主体的に心の成長の推進を図り、生命の大切さを理解し、SNSによるいじめを許さないという意識を向上させることができた。

大きないじめ案件もなく、早期発見・早期対応することができている。

生徒たちに蒲原中学校は、人権についてしっかり学ぶ学校であるという意識が根付いてきた。

高い人権意識をもつことができる生徒が増えている。

- 地域関係者やPTA、おやじの会、おやじの会OB、関係9自治会の方々が、学校の教育活動について、広い心でご理解いただき、支えていただいたため、混乱なく学校運営をすることができた。

連携小学校でも、地域の中学校へスムーズに進めるような配慮を、学校生活の様々な場面で行っていただき感謝している。

＜来年度に向けた課題＞

- 主体的・対話的で深い学び”が区学力調査の結果につながるよう授業改善を図る。
- 「いじめ」をはじめとする人権学習が定着しており、来年度以降も継続させ・さらに発展させることが課題である。

＜解決の方向性＞

- 自分で考え、学び合い、教え合う授業を取り入れ、更に、学力定着の低い生徒には学びタイム等を活用し、取り出し授業を行う。
- 毎日の職員朝会、週1回の企画会・生活指導部会・特別支援教育校内委員会、適宜開くいじめ防止対策委員会で協議を効果的に行い、教員の人権意識も併せて磨き上げるようにする。

(2) 保護者や地域へのメッセージ

日頃より本校の教育活動にご理解とご協力をいただきありがとうございます。

保護者及び地域の皆様には、お陰様で、令和5年度の生徒にかかわる行事は完全実施することができました。

心より感謝申し上げます。

地域関係9自治会、おやじの会、おやじの会OB会の方々には、今年度も蒲原中の応援をしていただきありがとうございました。これからも地域の行事へも本校生徒を温かく迎えてくださるようお願いします。

本校は教職員が更に一致団結し、保護者・地域とともに生徒の自立を目指し、生徒達を「厳しく、温かく、わかる言葉で」導き、社会に役立ち世界にはばたく人間を育てる学校でありたいと思います。

これからも皆様方のご指導、ご協力をお願いいたします。